

2023年12月8日 千葉大学アカデミック・リンク・センター  
2023年度第3回ALPSセミナー  
「マイクロレデンシャルと質保証」  
参加者アンケート（オンライン：Zoom）  
当日参加者数： 71名 アンケート提出数： 41件

本セミナーについて、参加者の皆様から寄せられたご意見・ご感想を以下に掲載いたします。なお、原則原文のまま掲載しておりますが、個人名・組織名が特定できないよう事務局で若干の調整をおこなっておりますことをご了承ください。

1. 本日のセミナーの満足度はどの程度ですか。

- ・満足した 35名
- ・まあ満足した 5名
- ・どちらとも言えない 1名
- ・やや不満である 0名
- ・不満である 0名

2. 1. でそのように回答した理由をお書きください。

満足した

- ・ 講師の説明と資料がとても分かりやすかった。
- ・ 野田先生のわかりやすい説明・資料により大変充実したセミナーを受けさせていただきました。
- ・ お話がわかりやすく、時間もちょうどよかったため
- ・ 充実したデータと事例で非常に勉強になりました。
- ・ 海外の状況が良く理解でき、今後の日本の高等教育機関での対応の示唆が含まれていた。
- ・ 自分の知りたい内容について、知ることができたから。
- ・ マイクロレデンシャルについて、国際的な動向と我が国の課題がとてもよくわかった。
- ・ マイクロレデンシャルという言葉自体を知らなかったのが、海外事例から日本の課題までまとめてご講義いただいたのがとても勉強になりました。
- ・ 海外の動向を中心に概要を理解することができたため。
- ・ 海外では学位プログラム以外のニーズが高まっていてシステム化されていることが理解できました。日本は大学進学率、大学進学者数だけに集中している感が否めないのが、欧米のような動きはまだ先かと思いました。
- ・ 今回のご講義でだいぶマイクロレデンシャルというものがイメージできました。
- ・ 非常に充実した内容で、かつ野田先生にわかりやすくプレゼンテーションいただけたため
- ・ 日本の高等教育機関が求められているマイクロレデンシャルへの取組みについて、海外の状況を非常に広範かつ精緻にご説明いただけたため。
- ・ 世界各国でのマイクロレデンシャルに関する議論の状況について大変勉強になりました。
- ・ 初学者でもわかりやすく内容を理解できたため
- ・ 海外では「学位よりもスキル」という潮流があり、大学が生き残り戦略としてマイクロレデンシャルに注目していることがよく理解できたため。
- ・ 短期間で学べるもので質保証もされているものが世界中で出てきていることがわかったから。
- ・ マイクロレデンシャルを理解し活用することが今後の大学の課題であると考えているので、大変参考になりました。
- ・ マイクロレデンシャルの概要を理解できたため
- ・ 今まで QF に関係する研修やご講演をいくつか聞いてきましたが、本日の研修がもっとも情報量が多く、整理も行き届いていて、感動しました。

- マイクロクレンシヤルを取り巻く海外事情の詳細を伺うことができたから
- 教育の質の保証を考える上で、「グローバル化」という言葉が独り歩きしているような戸惑いがあったが、本日の講演でそこに向けての方向性を何に焦点をあてていくべきかというベクトルを示して頂けたと感じた。「世界標準」の教育や人材育成を企業や社会の求める人財として最後に調整する役割を高等教育機関は担っているのだと強く感じた。SD力の向上についても、大学の世界でも企業から転職してきた男性職員が女性職員よりも高く評価されることに疑問を感じていたが、井の中の蛙であっても自身の子育てを通して、常に女性は社会の中の教育システムと深く関わる機会が多い。多くのことが遅れている日本において、ジェンダーも含め、社会構造の中での人的財産の育成が行われていく社会の実現に期待したい。可能性の種がたくさんあることが理解できる話の展開であり分かりやすかった。講師に感謝申し上げます。
- 時代の変化に伴い、教育制度の変革が求められる中で、マイクロクレンシヤルの重要性を知ることができたからです。
- マイクロクレンシヤルに関する知識を深められたと思います。
- マイクロクレンシヤルがなんであるのかの理解が十分にできた。
- あまり縁が無くよく知らない分野の話でしたが、わかりやすくとてもためになったから。
- マイクロクレンシヤルの世界的な現状と課題がよくわかった。

#### まあ満足した

- 海外の動向について大変勉強になりました。
- マイクロクレンシヤルの現状が知ることが出来ました
- 有益な情報が得られた。
- 各国・地域での Micro credential の違いを取り扱ってくださったので。

#### どちらとも言えない

- 業務の関係で質疑からの参加となりました。本編が聞けず、残念です。資料で勉強させていただきたいと思います。

### **3. 本日のセミナーで、よくわかったこと、新しい発見などがあればお書きください。**

- MC の定義は各国により大きな違いがあること、MC の役割など
- マイクロクレンシヤルの普及が学位の質に対する疑義と連動していること、しかねないこと。私立大学、とりわけ私立短期大学にとって、学生募集の点（つまりは短期大学制度自体の存続の面）で中期的に非常に重要な論点だと思います。
- 欧州ではかなり進んでいるものと思っていたが、まだかなり試行錯誤の面も大きいことが分かりました。
- 海外の大学が生き残りに必死であること。
- 大学の経営戦略として、今後の柱の一つになりそうだと感じました。一方で、産業界に必要とされるスキルだけでなく、人間として生きていくための人文系の知識等をベースに考える「大学」という場所自体も重要になっているのではと感じました。
- 日本においては、まだまだ整備されていないということが理解出来ました。
- マイクロクレンシヤルとは何か、その位置づけについて。
- 外部機関の委員として自分が行っている行為は、まさにマイクロクレンシヤルそのものかもしれない

と気づいた。

- 日本も大卒者が親世代になり、学び直しといっても大学院レベルが想定されますが、学位取得の必要性を感じているかどうかは疑問だと思います。企業ニーズにこたえる学位プログラムの構築よりも汎用性の高いMCのほうがニーズがあるのではないかと感じました。
- マイクロクレンシャルの外部評価は大変な労力を伴うものになる、これをどのようにするかで日本に定着するかどうかの分かれ目になるという視点が持てました。
- 各国、高等教育機関をはじめさまざまなステークホルダーがマイクロクレンシャルを活用していること、その際に大学が積極的に役割を果たそうとしていること
- 供給のことしか考えておりませんでした、受入れ（単位認定）の問題もあることに思い至りました。貴重な学びをありがとうございました。
- 民間と大学の連携が米国では非常に進展していることがよくわかりました。
- 「マイクロクレンシャル」という取り組みと世界動向についてよくわかりました。
- 子どもの習い事に相当する学びまで海外の大学がブランディングや収益のためにMCを提供していることに驚きました。
- 大学が提供する学びには働く社会人向けのものや高校生向けのものがあるということ。
- MCの日本での定義について、日本と世界の状況がよくわかりました。
- 世界の動向や日本の方向性についてなど、全て。
- 米国でも高等教育機関の経営難が始まっていること
- 単に「外国のやり方に合わせる」ということでなく、自国で培ってきた教育システムや企業の人材育成システムや社会のニーズそのものを世界レベルで競合できるようパラダイムシフトすることが重要なのだと感じた。私自身は図書館員であるが、図書館がその一翼を担うためにどのように運営をしていくのかを考えるとユニークなプログラムの提供や教員との連携事業はもとより、コロナ禍以降現在でも学内に関わらず図書館網を活かして、様々な講座が開催されていることを考えると、図書館を通して「大学の垣根を越えた学びの機会」を提供および展開するなど、多面的な教育現場への図書館の参画の機会と利用が広がることに期待感が沸いた。さらに「司書」育成でも課題となっている資格制度の見直しと深く関わる、外国のライブラリアンの資格条件やレベルとの相違も教育レベルと同様に落差も大きく、特に「大学図書館職員」としての司書の専門性の構築も急務と考えられているため、構築の過程を考えキャリアアップ・プログラムの構築等の構想を図書館でも提案していけるのではというワクワク感を感じた。
- 学士よりも新たなスキルが求められるようになってきている。広範な教養教育とともに、専門性（新たなスキルを含む）を深める必要がある。
- 世の中の現状がよくわかりました。私にも学びの場があるのかなと、希望が持てました。
- 日本ではただの習い事と思っていることでもマイクロクレンシャルとして履歴として積み上げていくことができると自分が何ができるのかを確認できて達成感が生まれるのではないかという発見があった。
- 特に北米地域での、大学の生存戦略としてのMicro credential 開発の動向を詳しく解説いただき、肌感覚で感じていたもの（学位だけでは足りず、就職・転職市場でのアドオンとしてmicro credential でスキルを身に着ける…といった学習動機など）をより体系的に理解することができました。

#### 4. 本日のセミナーで、よくわからなかったこと、疑問に残ったことがあればお書きください。

- 特にありません。(同様のもの2件)
- 日本は今後どのような方向に進んでいくのがよいのか。
- 海外、日本におけるマイクロクレンシャルの市場規模。

- 今後はこの方向に、ということはわかったが、どれくらいの年月をかけて行程を進めるのか。
  - 海外のマイクロクレンシヤルを日本の大学の単位に組み込めるか、またはその逆などどうなるのか。
  - 日本での展開において何が最も障壁となるのでしょうか
  - マイクロクレンシヤルの質保証に、日本は国として取り組もうとしているのか、そもそも問題として認識しているのかどうか。
  - 更に理解を深められるように、資料を見て勉強いたします。
  - 説明を聞き漏らしたのかもしれませんが、日本で他大学が提供している MC を受け入れて単位認定している事例があるかどうかを知りたかったです。
  - マイクロクレンシヤルに向けて、大学機関として今何ができるか、大学団体が何をすべきかについて、知りたい。
  - 日本が「高等教育の資格の承認に関する世界規約」に加入したことにより、研究者や技術開発者等の海外流出加速化懸念の有無について
  - 小さな疑問だが、日本では「英語検定」「中国語検定」など、独自で行っている検定があるが、国外の同様の語学資格と比較して、どの程度レベルが違うのか明確ではない。TOEICやHSKも点数と実際に話せるのかは比例していない場合がある。語学の資格などはどのように教育の中で標準レベルを測ることができるプログラムを作っていくべきなのか。小学校教育や入試にも関わってくるので、疑問に残った。
  - マイクロクレンシヤルの実施方法により、どの程度の効果があるかは、今後の課題ではないか。
  - 欧州地域での動向についてもより詳しくお伺いしたかったです。
5. **大学における教育・学修支援の在り方についてのお考え、教育・学修支援のために必要と思う資質・能力、また、教育・学修支援のご所属先での取組事例やご存知の特徴ある事例などがあればお書きください。**
- 特筆すべきものはありません。
  - 何を学んだか、実践してみてどう感じたか、学び手が主体的に振り返り、肚に落としていけるような動機付け、伴走が非常に重要と考えております。
  - 大社接続の観点から、企業が開発する研修プログラムとアカデミックな分野で大学が開発する教育プログラムのバランスの良い融合がこれからはより一層求められていくと思います。
  - ICT の発達に伴い、教育・学修支援の在り方が猛スピードで変化しているにもかかわらず、教職員や教育関係者の理解がそれに追いついていないと思います。今回のようなセミナーを積極的に受講し、変化をキャッチアップしていくマインドが必要と思いました。
  - 現在外国人留学生に向けてオープンバッジを発行しています。マイクロクレンシヤルではなく修了書電子化レベルですが将来的に質保証がされたマイクロクレンシヤルを発行し、高度外国人留学生の日本定着につなげたいと考えています。
  - 本学はまだ質保証が構築しきれていないので、実際はそこから始めないと、ご講演を応用できる状況にはないです。
  - 私立のオーナー型大学は内部組織に問題を抱えているところも多い。「理事長のガバナンス」が「学長のガバナンス」より勝り、ほぼ私物化状態の組織も存在する。第三者評価も一部形骸化しているように感じることもあるため、今後の多くの改革への道筋を考える時、今一度文部科学省がきちんと大学そのものを監査する必要もあるのではと一国民としては感じている。教職員に求められるSD力としては、①「他者と協働できる柔軟さ」が必要と感じる。更には職員は須らく一般事務職員であることに鑑み、②「全ての職場の経験を積ませる」ことも重要と考える。長く同じ職場にいて得た経験値を「専門

性」と呼んで昇任させても、結果的に後継者も同じ道をたどりかねない。なので③「仕事に興味や関心を持ち挑戦する意識」が高いことが求められる。そうした多課での経験が豊富になれば仕事の前後を考える力が身につくため必要となる④「人を育てる素養や力」が育つと痛感している。大学職員は⑤「情報収集力に長けている」ことは最も重要で、⑥「分析力」⑦「企画力」⑧「文書作成能力」⑨「プレゼン力」⑩「情報発信力」を備えることが必要な素養であり、全てを備えていなくとも他の教職員と協働・連携できるコミュニケーション力が備わっていれば、組織としてのグループ力は大きくなると実感している。

1、直近で人事評価等も含め、教員と職員の双方が組織の問題解決に取り組み、成果が出ている組織としては追手門学院大学様がある。教員の変革については伺えなかったので、ぜひ取組を伺ってみたい。

2、「グローバル」を意識した教育プログラムという点では、ICU様のお話を詳しくきいてみたいと感じている。

3、各国の拠点大学からみた、「日本の教育」に対する評価や感想、考えられる改善点なども聞く機会があれば、今後神戸でも始まる産官学（神戸市内の10大学が参画予定）のプロジェクトにも役立つと感じる。

- ・ 受験に必須の科目が絞られる傾向がある。しかし、大学教育において十分に理解を深めるために必要と考えられる科目は、高校（大学入学）までの過程で単位取得が必須であるとの指定をするべきではないか。
- ・ 学力や進学目的が必ずしも十分でない学生が大学に進学する時代なので、そのような大学の場合は、入試以前から、大学で学ぶ意味を自ら考えることができるように育てていく必要があると考える。そのため能力が、特に職員に必要と考えている。

#### 6. 本日の内容について等、その他、自由にご意見をお書きください。

- ・ 大変参考になりました。ありがとうございました。
- ・ 講師がとてもよかった。
- ・ 有難うございました
- ・ 耳慣れない言葉でしたが MC の概要が理解できたと思います。文部科学省がその方向に誘導する日も近い？のではないかと思います。
- ・ FD 研修会の内容を他大学に所属している者にも公開していただけることに感謝しております。引き続き、よろしくお願い致します。
- ・ とても聞きやすかったし、時間も適切でした。話題もタイムリーなものだったと思います。本当にありがとうございました。
- ・ 野田先生、岡田先生、本当にありがとうございました。
- ・ 社会人、特に卒業生へのサポートとして、生涯学習、リカレント教育はいかに役立つことができるのか。その側面的なサポートになるのが学修歴証明のデジタル化だと考えています。本日は貴重な学びの機会を有難うございました。
- ・ これまでも何度か拝聴させていただいたことがありますが、こうしたFD研修会を学内だけで閉じずに公開して実施していただき、誠にありがとうございます。
- ・ 漠然と捉えていたマイクロレデンシャルを整理したうえで理解できました。とても刺激的で勉強になりました。面白かったです。
- ・ いつもながら、興味深いシリーズの展開をいただき、感謝しております
- ・ 充実した内容でした。本当にありがとうございました。
- ・ 私自身、挑戦してみたかったことや、人事差別に負けないで助成金事業にも挑戦して獲得できた事案も

あったが、なかなか挑戦するチャンスは与えられなかったことを悔しくも感じているが、本日の内容は今後挑戦してみたかった内容であったことで難しい内容であったが、楽しく拝聴させて頂いた。自身の子育てや孫育ての中で教育の見直しには大きな関心があり、今後挑戦してみたいこともいくつかあるが、退職を迎えるので、大変残念に感じている。今後は大学という組織がリカレントや生涯学習の場としての学びの場ともなるのであれば、シニア世代を廉価な労働力」と考えるのではなく、ぜひとも社会への参画・活動できるフィールドとしてチャンスを与えていただける場の提供に繋げていただけることに期待したい。

- ・ 是非、定期的にホットな情報を交えて、この内容についてご講演いただけると幸いです。
- ・ 質保証をどうやって行っていくのか、日本ではそれをやる機関がでてくるのかが課題だと感じた。

**7. ご所属について、該当するものを選んでください。**

- ・ 千葉大学に所属 9名 ・ 千葉大学以外に所属 32名

**8. 身分について、該当するものを選んでください。**

- ・ 学生 0名 ・ 教員 7名 ・ 大学職員(図書館職員を除く) 20名 ・ 図書館職員 5名
- ・ その他 9名

**9. 千葉大学アカデミック・リンク・センターでは、セミナーの開催や関連する情報を提供しています。これらの情報を希望される方は、お名前・ご所属・メールアドレスをご記入ください。(既に登録されている方は引き続きお届けします。「登録しない」を選択してください。)**

- ・ 登録する 8名 ・ 登録しない 33名